

令和 8 年産

## 仙南稲作情報(第5号)

令和8年7月27日発行  
宮城県大河原農業改良普及センター  
TEL:0224-53-3496  
FAX:0224-53-3138  
E-mail:oknkt@pref.miyagi.lg.jp

- 5月10日移植の南部平坦「ひとめぼれ」は、7月15日ごろ減数分裂期に達したと見られます。
- 今後も高温が予報されているため、間断かん水や飽水管理など高温対策の水管理を徹底しましょう。
- 斑点米カメムシ類の多発が予想されているため、本田の残草対策や出穂後の殺虫剤散布など、斑点米カメムシ対策を計画的に行いましょう！

### 1 気象経過

- ・東北南部は、6月20日頃に梅雨入り。平年より8日遅く、昨年より3日早い。
- ・6月は、平均気温が平年よりも低かったが、7月第3半旬からは高温が続いている。
- ・出穂期から登熟前半は、高温で経過する予報。

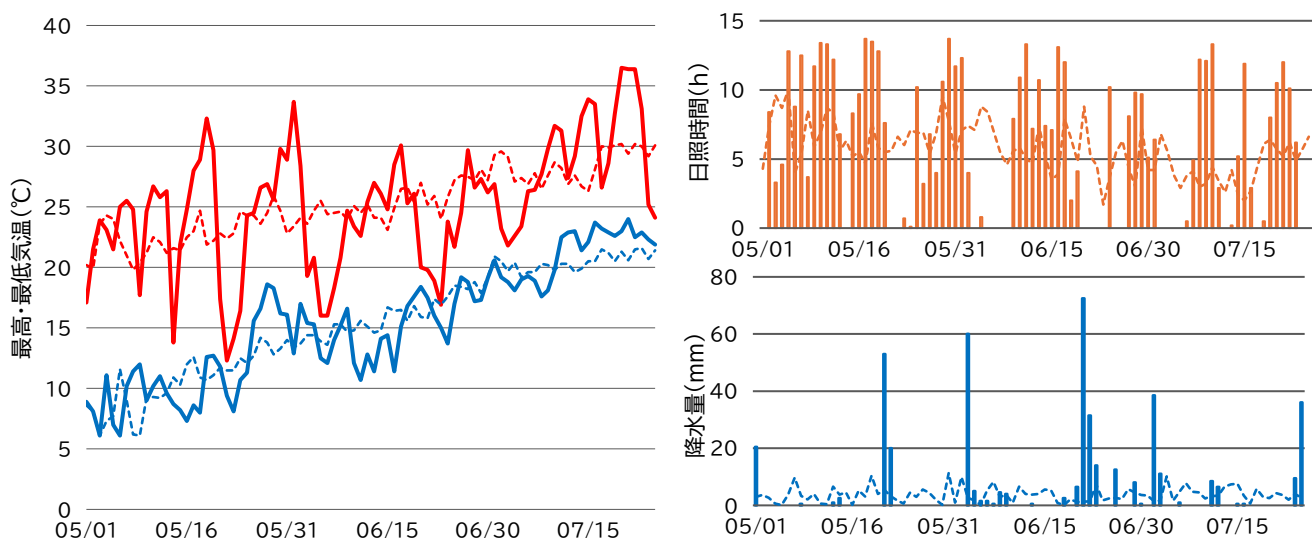


図1 気象経過（丸森アメダス、5/1～7/25、点線は直近10年の平均値）

表1 気象庁の向こう1か月予報（東北または東北太平洋側：7/23発表）

| 気温      |       |        | 降水量   | 日照時間  |
|---------|-------|--------|-------|-------|
| 7/25～31 | 8/1～7 | 8/8～21 |       |       |
| 平年並     | 高い    | 高い     | ほぼ平年並 | ほぼ平年並 |

## 2 生育状況

**茎数：平年並み～やや多い 葉色：平年より濃い**  
**5月10日移植の南部平坦ひとめぼれでは、走り穂が見られる**

表2 「ひとめぼれ」「つや姫」の生育調査結果（7/21調査）

| 市町  | 地帯区分 | 品種    | 田植   |      | 草丈   |      |      | 茎数    |      |      | 葉数   |      |      | 葉色   |      |      |
|-----|------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|     |      |       | 本年   | 前年   | (cm) | 平年比  | 前年比  | (本/㎡) | 平年比  | 前年比  | (枚)  | 平年差  | 前年差  | (GM) | 平年差  | 前年差  |
| 角田市 | 南部平坦 | ひとめぼれ | 5/10 | 5/13 | 81.2 | 99%  | 93%  | 416   | 108% | 96%  | 12.0 | -0.9 | -0.8 | 40.2 | +3.8 | +6.6 |
| 白石市 | 西部丘陵 | ひとめぼれ | 5/17 | 5/16 | 83.0 | 110% | 107% | 303   | 79%  | 94%  | 11.4 | -0.8 | -0.2 | 45.5 | +6.1 | +6.3 |
| 村田町 | 南部平坦 | つや姫   | 5/5  | 5/3  | 74.1 | 95%  | 91%  | 538   | 127% | 138% | 11.9 | -0.1 | ±0.0 | 37.9 | +1.1 | +5.4 |
| 角田市 | 南部平坦 | つや姫   | 5/25 | 5/22 | 86.4 | 113% | 112% | 508   | 124% | 119% | 11.5 | ±0.0 | -0.6 | 39.0 | -3.4 | -3.8 |

※平年値は、直近 5 か年（R3～R7）の平均値

白石市「ひとめぼれ」は R6 年度から調査ほ場を変更しているため、平年比・差は参考値。

- ・7月第2半旬以降の高温により、生育ステージが平年並みに戻っている。
- ・葉色は回復傾向にあり、平年よりもやや高め。
- ・5/10移植の南部平坦「ひとめぼれ」は 7/15 頃に減数分裂期に到達したとみられ、21日の調査では、既に 0.5%程度の株で走り穂が観察されている。
- ・5/7移植の西部丘陵「ひとめぼれ」は 7/17 頃に、5/5 移植の南部平坦「つや姫」は 7/21 頃に減数分裂期に到達したとみられる。

表3 幼穂長（7/21調査）

| 市町  | 品種    | 幼穂長   |        |        |
|-----|-------|-------|--------|--------|
|     |       | (mm)  | 平年差    | 前年差    |
| 角田市 | ひとめぼれ | 179.0 | +21.2  | -7.5   |
| 白石市 | ひとめぼれ | 182.0 | +111.0 | +167.6 |
| 村田町 | つや姫   | 86.0  | +32.9  | +62.7  |
| 角田市 | つや姫   | 1.2   | -2.1   | -0.1   |

※平年値は、R3～R7 のうち生育の早かった R6 の結果を除いた4か年の平均値

表4 栽培支援システムの NDVI(植生指数)と生育ステージ予測

| 市町  | 地帯区分 | 品種    | 移植日  | 平均 NDVI        | 生育ステージ予測           |      |
|-----|------|-------|------|----------------|--------------------|------|
|     |      |       |      |                | 減数分裂期              | 出穂期  |
| 角田市 | 南部平坦 | ひとめぼれ | 5/10 | 0.66<br>(7/10) | 7/15※ <sup>1</sup> | 7/27 |
| 白石市 | 西部丘陵 | ひとめぼれ | 5/17 | 0.67<br>(7/15) | 7/17※ <sup>1</sup> | 7/29 |
| 村田町 | 南部平坦 | つや姫   | 5/5  | 0.79<br>(7/19) | 7/21※ <sup>1</sup> | 8/1  |
| 角田市 | 南部平坦 | つや姫   | 5/25 | 0.64<br>(7/10) | 7/26               | 8/10 |

※1 幼穂長や葉耳間長の実測値から推定したもの。

※2 栽培支援システムは、BASF 社の「ザルビオ®フィールドマネージャー」を使用。  
 NDVI は、植物の生育量や活性度（葉色）を数値化したもの。（）内の日付は衛星画像の撮影日。  
 生育ステージ予測は、7/22 時点の移植日、品種、気象データ等を基にシステムが予測したもの。

### 3 今後の管理 ～高温対策～

#### (1)斑点米カメムシ類

##### 【発生状況】

- ・昨年、大河原管内では大型のクモヘリカメムシが多発し、斑点米カメムシ類による被害が多く発生しました(図2)。
- ・7/23 に病害虫防除所から注意報第1号が発表され、発生量は「多」と予想されています。
- ・管内のすくい取り調査でも、水田畦畔で多くのカメムシを確認しています(表5)。

##### 【防除対策】

- ・殺虫剤による防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・ヒエやホタルイが多発しているほ場では、稲の出穂前に斑点米カメムシ類が誘引されるため、防除のタイミングを「出穂始期～穂揃期」に早めてください。(2 回目の防除は1回目の7～10日後)
- ・大型のクモヘリカメムシは、登熟が進んだ粳に対しても加害します。クモヘリカメムシが多発している場合は、さらに1週間後の追加防除を検討しましょう。

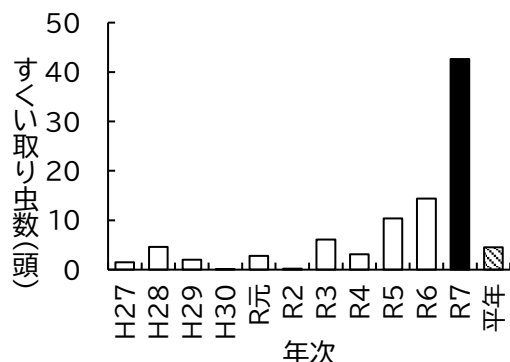


図2 大河原地域におけるクモヘリカメムシのすくい取り虫数の推移(8月中旬)  
(県病害虫防除所調査)

表5 斑点米カメムシ類(成虫)の発生状況

| 調査方法      | アカスジカスミカメ | ホソハリカメムシ | クモヘリカメムシ | その他のカメムシ |
|-----------|-----------|----------|----------|----------|
| フェロモントラップ | 0         | 0        | 15       | 0        |
| すくい取り 本田  | 0         | 1        | 0        | 1        |
| すくい取り 畦畔  | 42        | 24       | 20       | 1        |

※調査地点:丸森町、単位:匹

フェロモントラップは、クモヘリカメムシを誘引するもので、7/8 から14日間、水田内に設置。

すくい取り(20回振り)は、7/22にトラップ設置ほ場及び周辺畦畔で実施。



アカスジカスミカメ  
体長 5 mm程度

ホソハリカメムシ  
体長 10 mm程度  
肩がとがっている

イネカメムシ  
体長 13 mm程度  
丸みを帯びている

クモヘリカメムシ  
体長 16 mm程度  
緑色で細長い

図3 主要な斑点米カメムシ類

※縮尺は画像によって異なります。(右にいくほどより大型のカメムシ)

- ・本田へ追い込むことを防ぐため、畦畔の草刈りは、稲の出穂10日前から出穂20日後までは行わないようにしましょう。

### 【イネカメムシ】

- ・イネカメムシは、令和5年以降に福島県で発生が確認されていますが、本県での発生はまだ確認されていません。
- ・イネカメムシは、出穂期の稲を加害し、斑点米や不稔籾を発生させることから、品質低下だけでなく減収にもつながります。
- ・イネカメムシやそれに似たカメムシを見つけた場合は、普及センターか県病虫害防除所に情報提供をお願いします。

|                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 大河原普及センター先進技術第一班 | TEL: 0224-53-3496 |
| 病虫害防除所予察班        | TEL: 022-275-8982 |

## (2)水管理

- ・穂ばらみ期～開花期は、水の吸収量が最も多い期間ですが、高温条件では水温が高くなりやすいため、根に水分と酸素を供給できる「間断かん水」を行きましょう。
- ・開花期以降も高温が続く予報です。常時湛水は水温が上がりやすいため、「飽水管理」により地温の低下に努めましょう(図4)。
- ・「飽水管理」は、自然落水しながら足跡に水がなくなったら、田面が浸るくらいに入水する、水管理です。
- ・登熟に必要な水分を供給しつつ、ほ場が湛水状態にならないため、水温(地温)が温まりにくくなります。

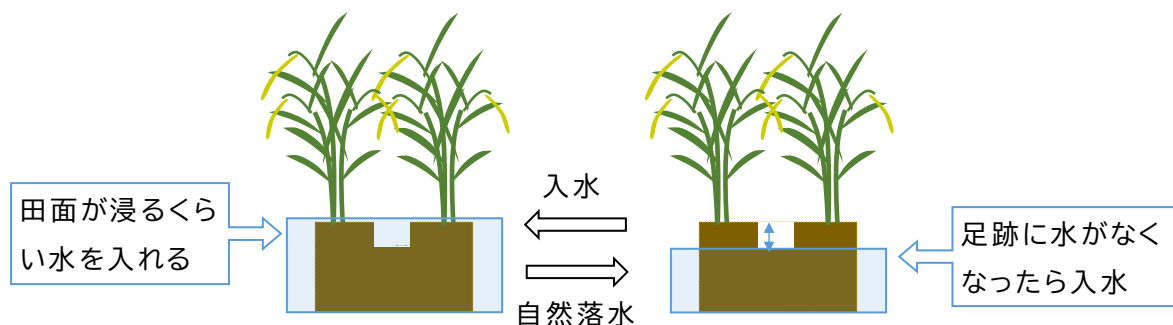


図4 飽水管理のイメージ

## (3)穂いもち

- ・7月第3半旬以降は、高温で推移しており、連続した感染好適条件は出現していませんが、生育量の多いほ場や葉色の濃いほ場は、発生に注意しましょう。
- ・上位葉での「葉いもち」は「穂いもち」の重要な伝染源になるため、ほ場を見回りながら、早期発見と防除に努めましょう。

## (4) 紋枯病

- ・近年は、6～8月の高温により、紋枯病の発生が増加しています。
- ・特に前年に発生したほ場では、畦畔際を中心に発生が多くなる傾向があります。
- ・穂や穂首など上位に進展すると、白未熟粒の発生（登熟不良）や倒伏につながります。
- ・ほ場を観察しながら、穂ばらみ期に2割程度の株で発病している場合は、茎葉散布剤で防除しましょう。



図5 紋枯病の罹病株

## 4 直播栽培の管理のポイント

### (1) 生育状況（7/21 調査）

#### 【湛水直播】

表6 湛水直播の生育調査結果

| 地域  | 品種    | 播種月日 |      | 苗立数(本/㎡) |      | 草丈   |      | 茎数    |     | 葉数  |      | 葉色   |     | 幼穂長  |     |
|-----|-------|------|------|----------|------|------|------|-------|-----|-----|------|------|-----|------|-----|
|     |       | 本年   | 平年   | 本年       | 平年   | (cm) | 平年値  | (本/㎡) | 平年値 | (枚) | 平年値  | (GM) | 平年値 | (mm) | 平年値 |
| 蔵王町 | ひとめぼれ | 5/29 | 5/10 | 67.9     | 56.5 | 32.2 | 71.1 | 185   | 508 | 7.9 | 10.9 | 185  | 41  | —    | 4.8 |

※今年は播種が5月下旬に変更になったため、平年値との比較はなし。

- ・播種日の遅れを考慮し、直近5か年の7/1、7/10調査と比べると、茎数がやや少なく、他は平年並み。
- ・5月上中旬に播種した場合は、表6の平年値を参考にしてください。

#### 【乾田直播】

表7 乾田直播の生育調査結果

| 市町  | 品種    | 播種日  | 苗立数<br>(本/㎡) | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/㎡) | 葉数<br>(枚) | 葉色<br>(GM) | 幼穂長<br>(mm) |
|-----|-------|------|--------------|------------|-------------|-----------|------------|-------------|
| 村田町 | ひとめぼれ | 3/15 | 106.7        | 75         | 445         | 10.8      | 39         | 58          |

※R8から新規で調査しているため、比較対象はなし。

- ・7/9頃に幼穂形成始期に入ったと予想される。
- ・茎数や葉色は、概ね順調に生育している。

### (2) 管理のポイント

#### 【いもち病防除】

- ・葉いもちの発生が確認された場合は、速やかに茎葉散布剤を散布してください。
- ・直播栽培では葉いもち防除を行っていないことが多いので、ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。



### 【紋枯病防除】

- ・近年は、高温の影響で紋枯病の発生が多くなっています。特に乾田直播などの条播のほ場では、条に沿って面的に感染が広がりやすい傾向があります。
- ・前年に紋枯病の発生が多かったほ場では、出穂前の予防剤の散布や、穂ばらみ期頃の茎葉処理剤散布を検討しましょう。

### 【イネツトムシ防除】

- ・直播栽培は、移植栽培よりも葉色が濃くなるタイミングが遅れるため、イネツトムシの被害を受けやすくなります。
- ・イネツトムシは、8月上旬頃から幼虫の食害が始まり、葉を円筒状につづった「ツト」を形成します。
- ・発生が多いと減収いつながるので、殺虫剤による防除を行いましょう。



図6 イネツトムシ(イチモンジセセリ)  
左：幼虫、右上：成虫、右下：形成したツト

#### ○夏の熱中症等対策声かけ期間(7月～9月)

- ・農作業中の熱中症等による死亡者が急増しています。
- ・こまめに休憩と水分・塩分を取りながら農作業を行いましょう。
- ・熱中症は自身では気が付きにくいので、一人作業を避けて、お互いに声掛けしましょう。

#### ○令和8年度宮城県農薬危害防止運動(～8/31)

- ・農薬を使用する際は、農薬ラベルをよく読み、周辺へ配慮し飛散防止対策を徹底しましょう！
- ・最新の農薬情報は、農林水産省ホームページで確認できます。